

編集後記

◆本誌は20号に到達。又りんご並木は今年で70周年です。共に多くの方々のおかげです。共にお陰です。りんご並木のクラブがあったお陰です。フランドンディングのプロジェクトの目標に達したようです。(伊原)

◆「地球沸騰化」が初登場し、日本では猛暑、線状降水帯による水害が多発しており、温暖化を止めねばなりません。創立70周年を迎えた在京飯田高校同窓会を統一的にするためには多くの若い同窓生の参加が必要です。(大原)

◆新たな編集委員会の体制にて区切りの「稲穂第20号」の編集、発刊に携わることができたことを嬉しく思います。ご協力いただいた寄稿者、協賛者に感謝申し上げます。(岡田)

◆わが家マンション1階真上に住む方は、児童団疎開で飯田の小学校に通った。わずか1年3カ月の滞在だったが校歌も信濃の国も口ずさむ。5年余離れていた「稲穂」編集に縁あって戻りました。(栗下)

◆「稲穂」創刊20年。この間個人的にも結婚・家の新築など環境の変化があったが、都心への事務所移転も大きな出来事であった。故人である同窓会の先輩のご配慮によるが、今でも大変感謝している。(神原)

◆在京同窓会が70周年の記念すべき年、良い稲穂が出来、大変良かったです。寄稿者、編集委員のご努力は、同窓生にとって心豊かにしてくれと思います。(佐々木)

◆今回はフレッシュトークを担当し、若い方でも飯田に貢献したいという気持ちがあることにとても嬉しくなりました。「稲穂」を通じて世代間の橋渡しができればと思

います。

◆20号発刊の喜びとともに時代の変化を見定めつつ更なる発展と皆様に充実感を実感していただける誌面作りを心がけたいと思います。また、皆様からの協賛(広告・協賛金支援)に感謝申し上げます。(長沼)

◆昨年本誌に広告を載せたら、仕事で付き合っている知人が「私も飯田高校です」と名乗り出た、それも2人だと同期の友からうれしい知らせ。早速、合縁奇縁の酒宴に招かれ、ミニ同窓会を堪能。つい深酔いしました。(原)

◆「稲穂」に感謝します。へ天龍流れて稲穂は黄金：と歌ったら、故郷の田んぼの稲穂を見に行きたいなあとオセンチ気分になりました。(牧内)

◆故平田達・元在京飯田高校同窓会会長のマンションで4年ぶりに編集会議を再開、終了後の居酒屋談義を楽しみました。本年度で最後となりますが、同窓会のために長きにわたりマンションをお貸し頂いたことにお礼申し上げます。(松原)

◆今号から編集委員に仲間入りさせていただきました。きました。が、昨年災い転じて乳がんの臨床研究団体の事務局という天職を得て猛烈に忙しくなり、委員とのかけ持ち苦戦中です。(丸山)

◆久々に対面の編集会議ができて良かったです。体調の維持が困難になってきました。集中力が続かず、タイピングのミスが目立ちます。できる範囲で無理せず頑張ろう！という意識に代えました。(三ツ橋)

◆20号を迎え、コロナ禍にあつても変わらず出し続けた1号1号の尊さを改めて思います。今号はまったく役に立てなかつた恐縮な思いと共に。(茂木立)

『稲穂』第20号

発行 在京飯田高校同窓会

〒100-0004

東京都千代田区内神田1-18-1

イワカビル4F

本島信法律事務所内

03-5221710666

発行日

2023(令和5)年10月1日

発行人

松原秀幸 (高19回)

編集長

栗下修一 (高21回)

副編集長

長沼寛 (高21回)

同

原誠 (高23回)

特別編集委員

茂木立みどり (高36回)

同

佐内雪彦 (中47回・高1回)

編集委員

伊原信夫 (高15回)

同

大原直 (高21回)

同

三ツ橋史緒子 (高22回)

同

岡田峯明 (高25回)

同

神原雅直 (高31回)

同

丸山百合 (高37回)

同

菅沼大樹 (高51回)

装丁設計

酒井崇 (高49回)

DTP

有限会社ペラピスタスタジオ

印刷・製本

公和印刷株式会社

編集委員大募集!!

『稲穂』の編集委員を募集します。在京飯田高校同窓会会員であれば老若男女は不問。編集関係の経験など予備知識も一切不要です。ふるさとを愛する仲間たちとワイワイしましょう。

応募は氏名、卒業回数、連絡先を明記のうえ、

メール naokivida.edt@mail.noda.ac.jp

または FAX 03-534414399へ